

ロンシャン2023年秋冬コレクション「AT THE RACES: SUNDAY AT THE HIPPODROME」



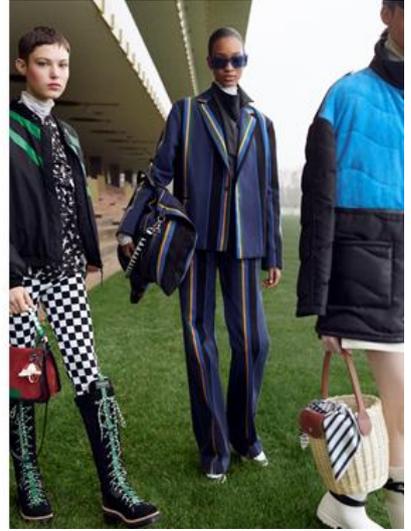
ロンシャンは、2023年秋冬コレクション「AT THE RACES: SUNDAY AT THE HIPPODROME」をパリ・ファッションウィーク期間中に発表いたしました。1948年、メゾンの創業者 ジャン・キャスグランはパリ最古の風車小屋が佇むロンシャン競馬場と自身の姓 Cassegrain (casser le grain、フランス語で“粉挽き”の意)を結び付け、ロンシャンという革製品のメゾンを創業するに至りました。孫にあたるクリエイティブ・ディレクターのソフィ・ドゥラフォンテーヌは、今季メゾンの原点である競馬場に立ち返り、現代のパリジェンヌが熱気溢れる色鮮やかな競馬場で過ごす日曜日をコレクションで表現、馬術のスポーティでカジュアルシックなスピリットに温かみのある素材使いでひねりを加えた世界を全35ルックに描き出しました。

日曜日の競馬場 – 騎手、観客、馬主が今季の主役たちです。厩舎では、厳格と完璧主義を合言葉に、選び抜かれた馬と騎手が興奮を抑えつつも着実に出走準備に勤しんでいます。騎手は“ロンシャン・ホース”があしらわれたレインブーツを履き、大股で歩き回っています (Lookbook 1)。今季、乗馬靴に着想を得たこのブーツは馬具や厩舎の色を想わせるレザーストラップでカスタマイズできるようになりました。レースでは、騎手は色と模様が厩舎ごとに異なる勝負服“カザック”を着用します。競技場を沸かせる騎手の格好に習い、白黒市松模様のセーターやレギンス、ドレス (Lookbook 4, 9, 14, 25, 38)、“ロンシャン・ホース”をあしらった厚手のロングニットドレス (Lookbook 36)、斜めのストライプをあしらったボンバージャケット (Lookbook 1, 4, 9, 29) のルックが揃います。マルーン、スカイブルー、オレンジ、レッド、グラスグリーン、イエロー、ピンクと、レースを彩る鮮やかなカラーをデザインに取り入れた「ル プリアージュ® カザック」 (Lookbook 5, 10, 21, 27) やレース観戦に欠かせない双眼鏡のケースをモチーフにした「エピュレ」新モデル (Lookbook 2, 14, 20) も登場いたします。

『競馬場に命を吹き込むすべてのキャラクターたちと仕事をするのはとても魅力的なことです。馬と騎手の関係性は私の心の中で特別な位置を占めており、今季のコレクションで再訪するのはメゾンの歴史全体なのです』(クリエイティブ・ディレクター ソフィ・ドゥラフォンテーヌ)

LONGCHAMP

PARIS



厩舎の傍には、ベテランの勝負師たちが競馬新聞を小脇に抱え、家族連れが観客席や馬場の雰囲気を楽しむなど、様々な観客が集っています。誰もがリラックスしていてにこやかです。彼らのなかには、メゾンが回帰したクラシックなセーリングストライプのジレ (Lookbook 31) やピーコート (Lookbook 34, 37) を選ぶ競技ファンがいます。またパンツスーツにフリルのブラウスを合わせたり (Lookbook 30)、タフタのロングドレスにスタンドカラーのレザージャケットを重ねたり (Lookbook 33) とよりフェミニンな装いをする人もいます。なめらかなタフタのロングドレスに寄り添うバケット型の「ボックス-トロット」新モデルは洗練された現代的なシルエットを創り出します。また「ボックス-トロット」には、コバルトブルーとグラスグリーン (Lookbook 8) の大胆なシーズンカラーが登場いたします。

『レイヤリングが大好きです。冬に必要な心地良い“包まれる”感覚を楽しみながら、シックでカジュアルに装えますから』(クリエイティブ・ディレクター ソフィ・ドゥラフォンテーヌ)

騎手と観客に続き、馬主たちがパドックを闊歩しています。彼らはストレートカットのフランネルパンツにショールカラーのブレザーを合わせてダンディに決めています (Lookbook 4)。テニスストライプはコレクションの重要なテーマのひとつで、シックでスポーティなスピリットを体現しています。

プラム、コーン、マホガニーといった温かみのあるカラーパレットやカモフラージュ柄 (Lookbook 2, 15, 20) が、シアリングのコートやブルズン (Lookbook 16, 17, 36)、ジレ (Lookbook 31, 36)、カラーブロッキング調のパネルが構造的なコート (Lookbook 11)、キルティングのフランネルやレザーで仕立てたスタンドカラーのジャケット (Lookbook 5, 24, 33)、カーゴパンツ (Lookbook 2, 5, 20) といったシックでスポーティなアイテムを惹き立たせます。またブラックやタバコブラウンのハイブーツ (Lookbook 4, 7, 9, 13, 19, 23, 35) はコントラストを効かせたテクニカルシューレース付きで、冬のシーズンや冒険に繰り出す装いにぴったりです。ベルベットのようなコーデュロイのベースボールキャップで仕上げてみましょう。

ロンシャン 2023 年秋冬コレクション “AT THE RACES: SUNDAY AT THE HIPPODROME” – 競馬場は観客と競技のプロフェッショナルが放つ情熱がひとつになる場所であり、メゾンと競馬もサヴォアフェールやエナジー、信頼という同じバリューを有しています。ロンシャンは今季メゾンが始まった場所に立ち返り、競馬の世界を祝します。

ロンシャン・ジャパン株式会社

マーケティング&コミュニケーション部 PR 伊藤 (03-3478-1705 | y.itoh@longchampjapan.co.jp)

LONGCHAMP

PARIS

※ルックブックや画像素材をご希望の方はロンシャン PR までお問い合わせください

【ロンシャンについて】

1948年にフランス パリでジャン・キャスグランが創業した、現代性溢れるラグジュアリーとクリエイティビティ、ダイナミズムが融合したメゾンブランド。パイプにハンドステッチレザーを巻いた、世界初のラグジュアリー革巻きパイプからはじまったブランドは、70年以上に及ぶヘリテージを踏襲しながら、現代に生きるロンシャンウーマンを彩るスタイルを発信し続けています。ロンシャンは、1993年に発表した、折り紙からインスパイアされた「Le Pliage® (ル プリアージュ®)」やバンブーのトグルが印象的な「Roseau (ロゾ)」など、フランスのサヴォアフェールが宿るアイコニックかつタイムレスなバッグコレクションを世に送り出してきました。現在は、アーティストック・ディレクター ソフィ・ドゥラフォンテーヌのもと、フレンチ・エレガンスを再解釈したプレタポルテや、レディース・メンズ向けのバッグ、アクセサリ、シューズ、アイウェア、トラベル用品を毎シーズン発表しています。家族経営の伝統を守るロンシャンは、今もキャスグラン家が所有・経営、世界80か国に300を超える直営ブティックを所有しています。日本では、2019年7月に「ロンシャン ラ メゾン銀座」が誕生し、フラッグシップである表参道・銀座のラ メゾンを含む56ストアを擁します(2021年6月時点)。また、フランス セグレに構えるアトリエを拠点にクラフトマンシップを重んじるロンシャンは、2007年以降、フランス政府により無形文化財企業に認定されています。

https://prtimes.jp/main/html/searchrlp/company_id/17782

【掲載時のお問い合わせ先】

ロンシャン (ロンシャン・ジャパン) TEL 0120-150-116

公式オンラインストア <https://www.longchamp.com/jp/ja/>

Facebook <http://www.facebook.com/Longchamp.japan>

Instagram <https://www.instagram.com/longchamp/>

Twitter http://twitter.com/Longchamp_JP

LINE @Longchamp.Japan